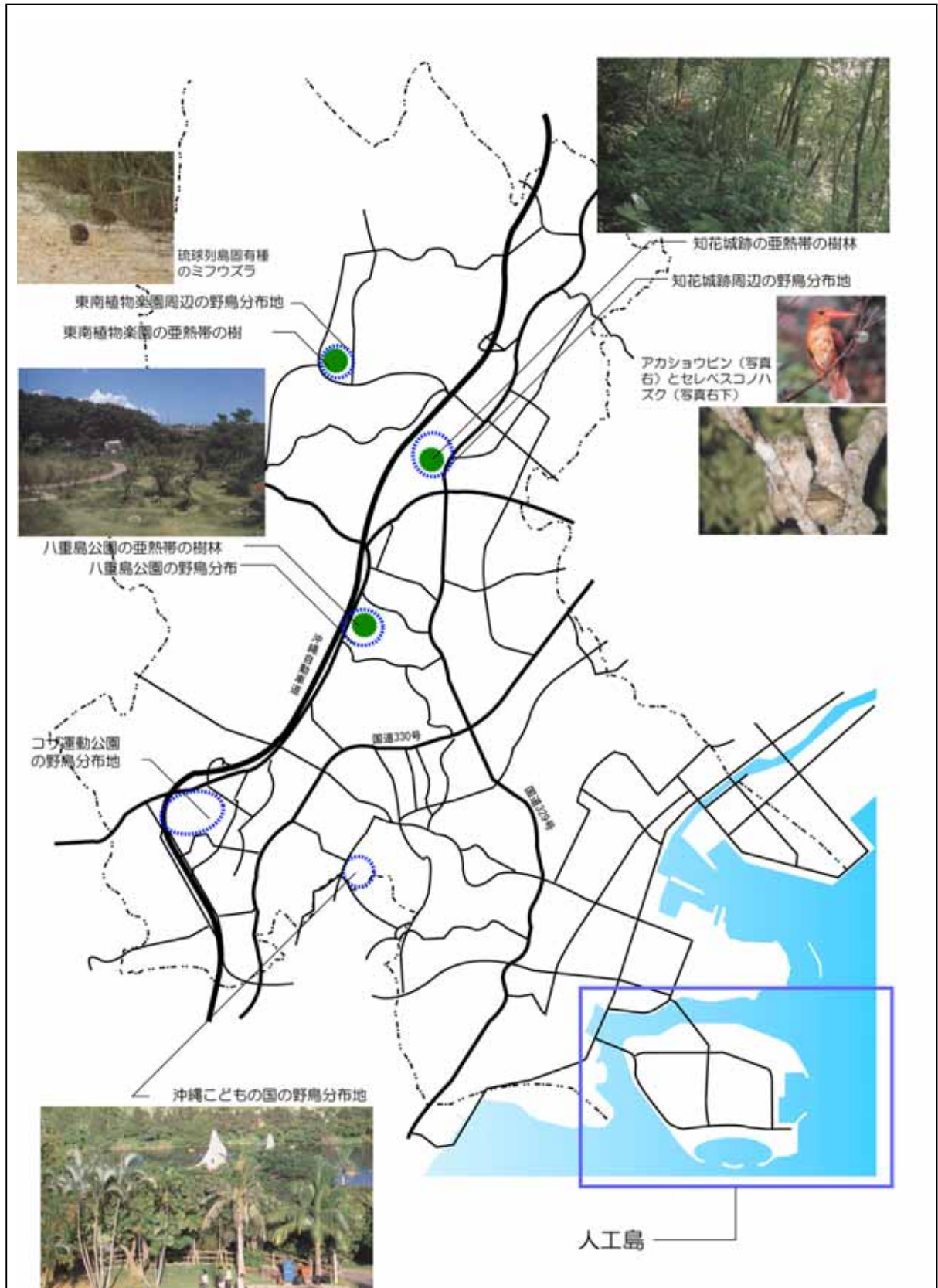


. 現状までの検討結果

1. 活用資源の抽出・整理

1.1 自然的活用資源

(1) 沖縄市陸域部における活用資源



(2) 泡瀬地区・人工島周辺における活用資源



1.2 社会的活用資源

(1) 沖縄市における活用資源



(2)泡瀬地区・人工島周辺における活用資源

工芸ゾーン (イメージ)

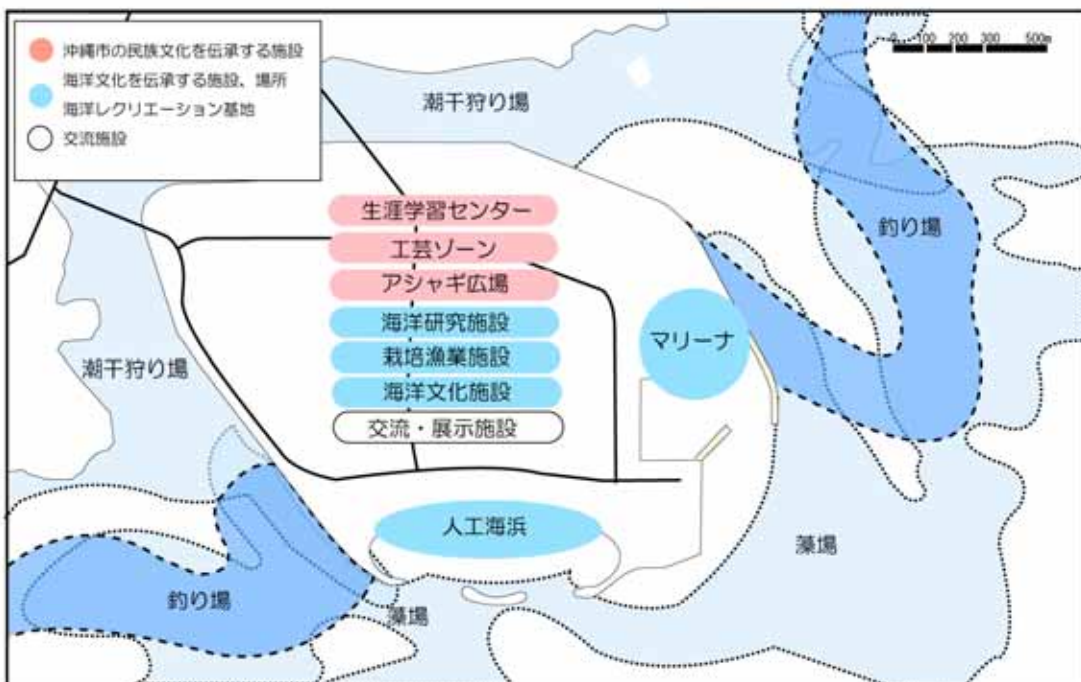


工芸品の実演、販売等を行うゾーン

マリーナ (イメージ)



海洋性レクリエーションの拠点



アシャギ広場 (イメージ)



沖縄の伝統民芸や音楽等のイベントが開催できる広場

市民ビーチ (イメージ)



海水浴の地、マリンスポーツが楽しめるビーチ

2. 環境学習等の課題抽出

学童が実施する総合学習（環境学習）及びエコツアー実施上の問題点や課題について整理抽出すると、以下に示すとおりである。

表 - 1.2.1 環境学習等の問題・課題

課題項目	問題・課題
環境学習実施上の問題点・課題	<p>総合学習（環境学習）の題材となる自然環境・社会環境を効果的に活用するための方策を、多方面から検討・構築することが必要である。</p> <p>実際の学習プログラム作成にあたっては、小学生等の総合学習への活用には児童の学習意欲や興味を持たせるための方策検討（遊びの要素を加える等）を行うことが必要である。</p> <p>環境学習の積極的な推進のための検討が必要であり、そのための、諸団体へのヒアリング調査等の実施など、実現に向けた努力が必要となる。</p> <p>背後既存施設との連携により、多彩なプログラムを提示することが望ましい。</p> <p>高質かつ魅力的な環境学習を実現するために、国際的な機関や団体との連動方策を検討することが必要である。</p> <p>体験の実感を確実なものとするための発表の場の構築や表彰制度など、多岐にわたるフォローを検討することが必要となる。</p>
自然体験実施上の問題点・課題	<p>インタープリターの養成など、既に指導している県内の団体（ネイチャーワークス等）等の協力を得て、地元から新たに人材を確保することが課題となる。</p> <p>時間に余裕を持って楽しむためにも宿泊施設等の設備が必要となることから、既存宿泊施設の活用や人工島内新規整備施設との連携、さらには、効果的な自然体験の実施のための適切な施設整備計画などが必要である。</p> <p>ソフト面の検討（プログラム構築、実施推進団体・連携協力体制、PR手法、資源管理など）も、同時に検討することが必要である。</p> <p>コンセプトが共通する周辺の観光地（世界遺産等）との組合せによる多様なコース設定の検討が必要となる。</p> <p>水産関係者、農業関係者、商工会等、地域全体の連携により地域活性につながる施策を具体的に検討していくことが望ましい。</p>

3. 地域住民の意向の整理

東部海浜開発に係る市民アンケート（平成5年7月）

市が置かれている現状の問題点として、観光資源の少なさや、市内での就業機会の少なさが挙げられており、東部海浜開発計画による地域経済の活性化が求められている。

市行政施策に対する要望としては国際化に対応できる中城湾港の開発が望まれている。

東部海浜開発計画においては、市民が日常的に楽しめるスポーツレクリエーションの場の形成、新たな観光資源として集客力の向上が期待できる大規模な人工海浜の整備を望む回答が多い。

4. 環境利用の方向性の検討、設定

方向性 1	環境利用学習推進のためのシステムの構築
方向性 2	社会環境を活用した学習の推進
方向性 3	自然環境を維持し、持続的に利用するための資源管理を行う
方向性 4	周辺の既存資源をも活用した環境利用学習プログラムの確立
方向性 5	海事に関わる環境利用学習の展開

5. 既往プログラム事例の整理

5.1 環境学習プログラム

(1) 事例に見る環境学習プログラムの特徴

学習対象は広範で、総合的である

環境学習で扱う内容は、地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球規模での環境から、動植物などの身近な「自然環境」、人的環境、施設、エネルギー消費や経済活動などの「生活環境」、地域の歴史・文化・食といった「文化環境」など、幅広い要素が対象となっている。

また、地域の木等、暮らしに身近な素材を取り上げて「気づき、関心」を呼び起こし、さらにはその素材と自らを含む環境との相互関係を考える総合的なプログラムである。

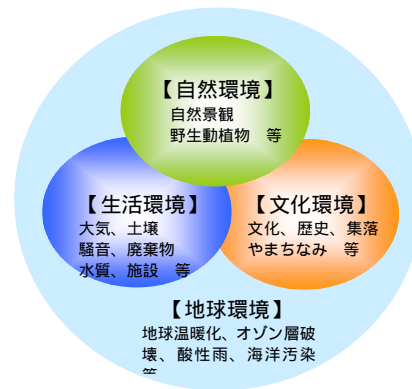


図 - 1.5.1 環境学習プログラムの対象

学習者のライフステージを踏まえたプログラムである

環境教育の目標は、参加者のライフステージにより異なるものである。

事例では、幼児期には直接体験を通して自然と人に対する関心や感性を養い「気づき、関心を持つ」、就学期では自然に対する知識や自然に対する技術を学ぶ「知識を深める」等、学習者の年齢等に応じた目標とアクティビティが設定されている。

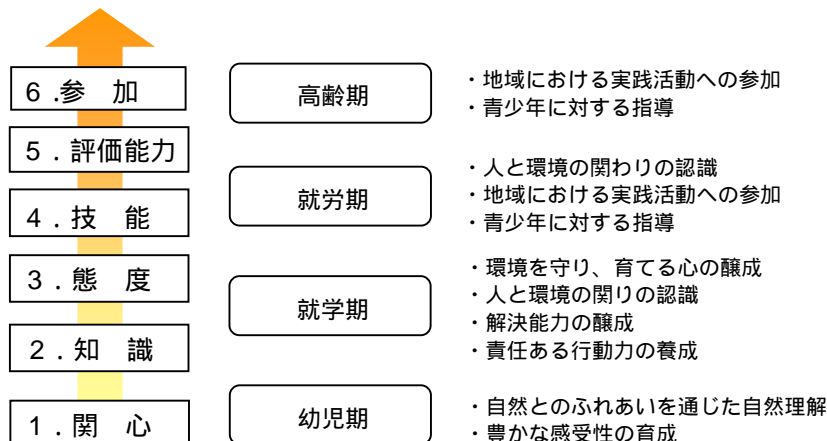


図 - 1.5.2 ライフステージと環境学習プログラムの目標

自らが課題を見つけて学び、考えるプログラムである

自然を観察したり調べることを通して、自ら疑問や不思議を発見し、仮説を立てながら観察することや、生きものの暮らしを理解したり自然の法則性について発見できる力を養う（学び方を学ぶ）プログラムである。

5.2 自然体験活動プログラム

(1) 自然体験活動プログラムの特徴

地域の自然環境資源、社会環境資源を活かした多様なアクティビティ

美しい海や山等、地域の自然的資源を活かし、利用者が地域の自然を理解し、楽しむことができるアクティビティを用意している。また、本来主流であった自然体験、共同体験だけでなく、工芸（クラフト）等の芸術活動、史跡めぐりや地場産業見学等の地域体験活動等、多様化している。

利用者と地域の人とのふれあいを大切にしたプログラム

自然体験指導員（インタープリター）だけでなく、漁業等に携わる地域の人が実際に漁業体験指導をする等、地域の人材を積極的に活用し、利用者と地域の人とのふれあいを大切にしたプログラムが多く見受けられる。

6. (仮称)泡瀬地区環境利用学習プログラムの目標

6.1 環境利用学習プログラムの対象者

(仮称)泡瀬地区環境利用学習プログラムの対象者を、マリンシティ泡瀬の居住者をはじめとする沖縄市民、及び県内外からの観光客とする。

6.2 環境利用学習プログラムの目標

(案)泡瀬地区環境利用学習プログラムの目標

自然とのふれあいや様々な実体験を通じて、環境への関心を深める。家庭や地域社会、企業などの日常生活や事業活動が、環境に対して負荷を与える要因であることに気づく。

泡瀬地区内外の自然環境を保全し、自らの日常生活や事業活動を環境への負荷の少ないものに転換していくために、自分は何をしなければいけないのか、何ができるのかを考える。

日常生活や事業活動の中で、市民や民間団体、事業者、行政といった様々な主体が連携して、環境保全に向けた取り組みを実践し、継続的に発展・拡大する。

6.3 環境利用学習プログラムのテーマ

[環境学習の対象]

[泡瀬地区環境利用学習プログラムのテーマ(案)]

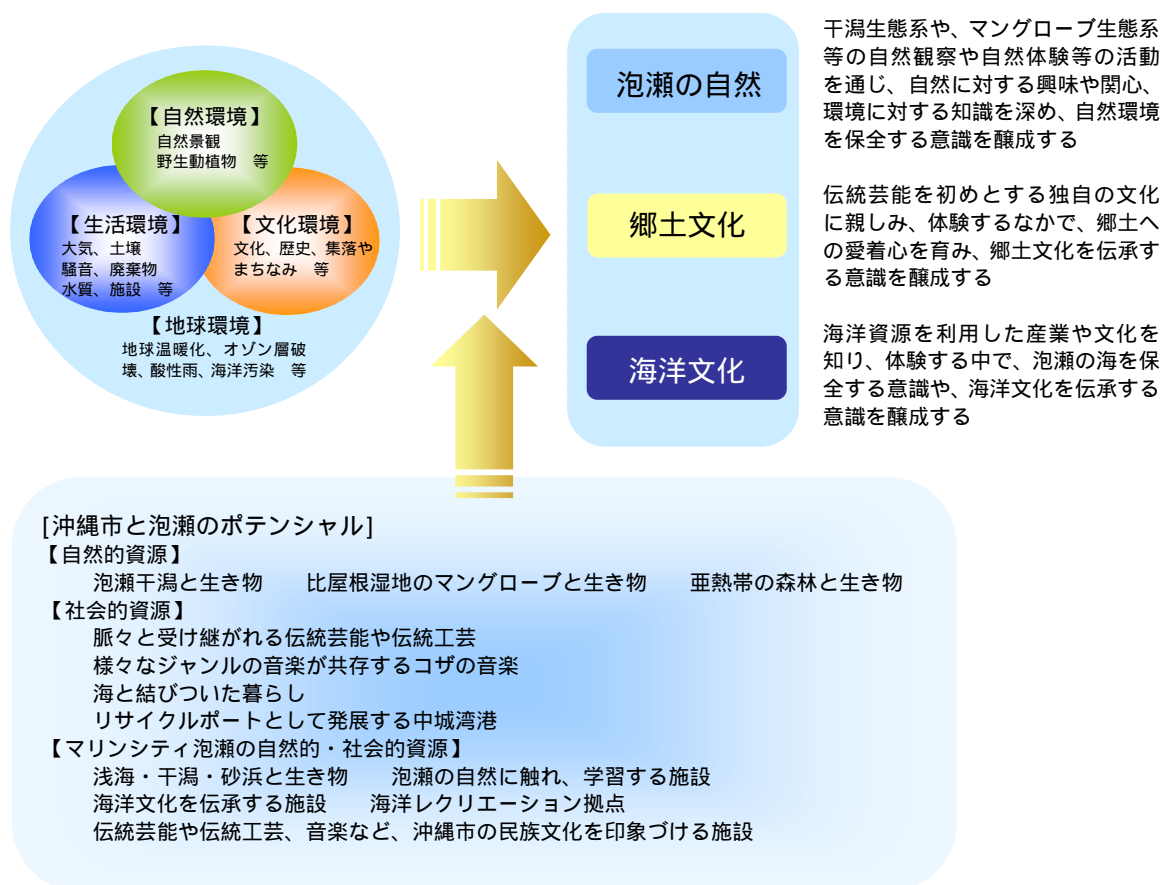


図 - 1.6.1 環境利用学習プログラムテーマ

7. (仮称)泡瀬地区環境利用学習プログラム

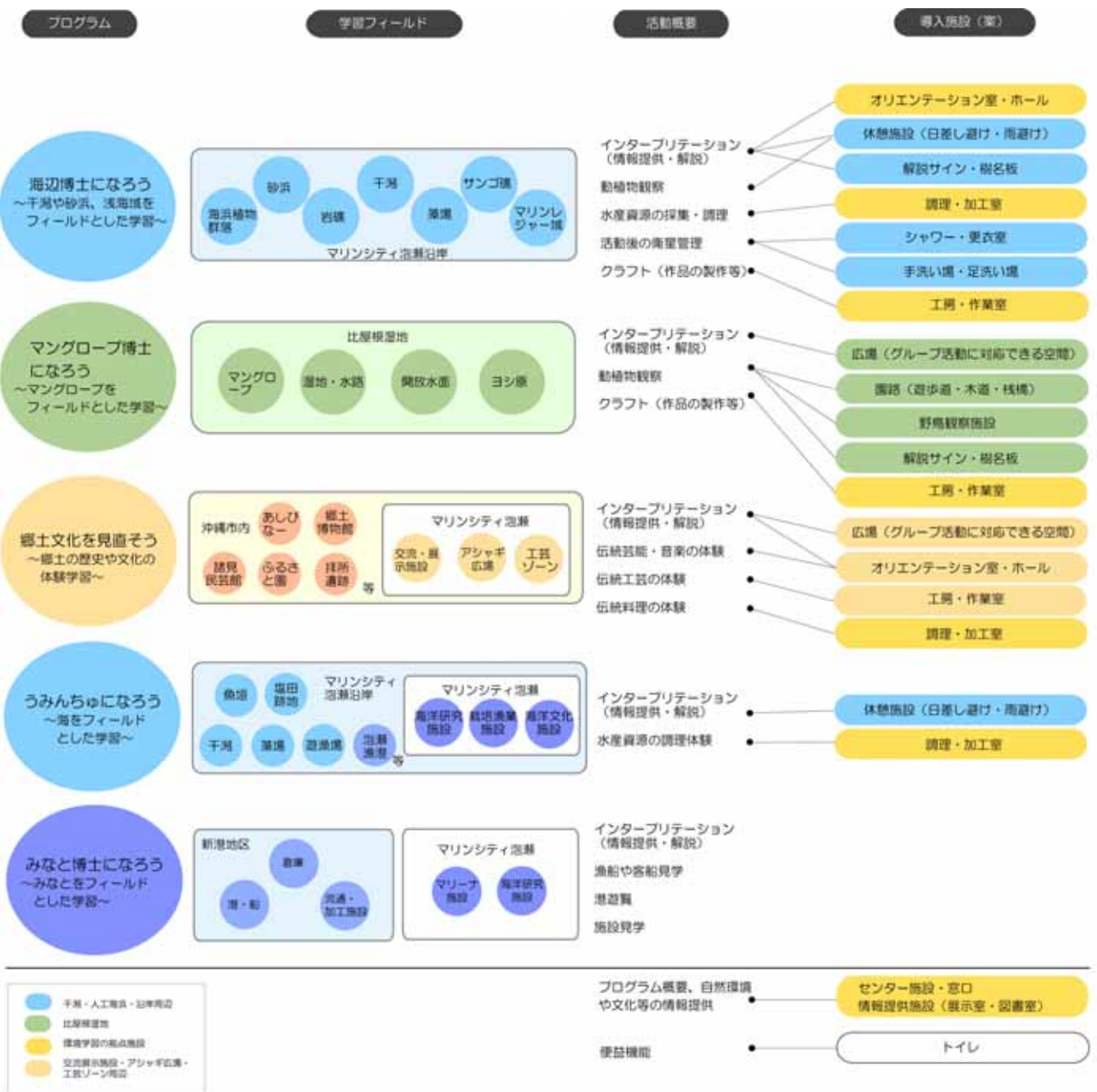
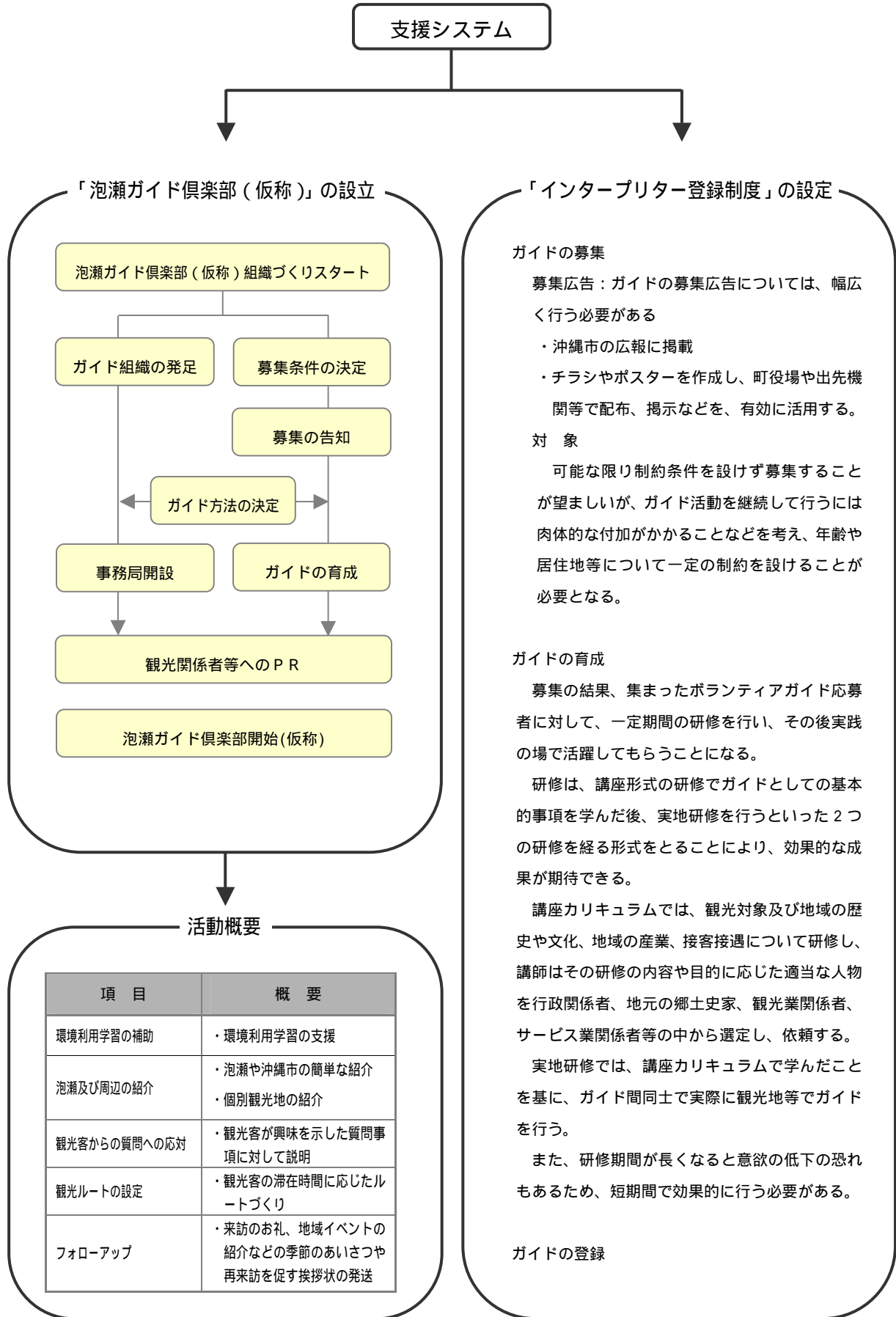


図 - 1.7.1 環境利用学習の推進に向けた導入施設(案)

8. 環境利用学習推進のためのシステム



9. 地域住民、NPO等諸団体及び学校の意向把握

9.1 アンケート・ヒアリング調査の対象

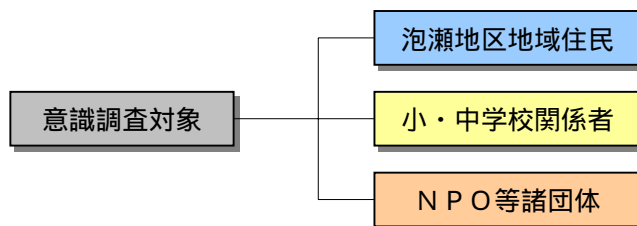


図 - 1.9.1 意向調査の対象

9.2 アンケート・ヒアリング調査の目的

表 - 1.9.1 アンケート・ヒアリング調査の目的

区 分	アンケート調査の目的
泡瀬地区地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における特徴的な自然環境について把握する ・ 地域における特徴的な社会環境について把握する ・ 地域の自然・社会環境学習の認知及び参加経験について把握する ・ 地域の自然・社会環境学習活動への興味・参加、協力について把握する
小・中学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡瀬地区における環境学習や体験プログラムの活動状況を把握する ・ 泡瀬地区における環境学習実施上の問題点・課題について把握する ・ 泡瀬地区における環境学習実施の可能性を把握する ・ 泡瀬地区における自然環境実施上の必要な支援について把握する
NPO等諸団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡瀬地区における自然・社会環境学習で興味を引かれるものを把握する ・ 泡瀬地区における自然・社会環境学習実施上の問題点・課題を把握する ・ 泡瀬地区における活動の可能性を把握する
沖縄市及び周辺の環境関連団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡瀬地区における自然・社会環境学習で興味を引かれるものを把握する ・ 泡瀬地区における自然・社会環境学習実施上の問題点・課題を把握する ・ 泡瀬地区における活動の可能性を把握する

9.3 アンケート・ヒアリング調査項目の検討

(1) 泡瀬地区地域住民へのアンケート調査

地域住民の意向調査はアンケートによるものとする。アンケート調査は、以下の構成により行うこととする。

泡瀬地区の自然環境について

- 泡瀬地区における特徴的・代表的な自然環境について
- 泡瀬地区において興味を引かれる自然環境について
- 泡瀬地区における自然環境の現状認識について
- 泡瀬地区における環境改善のための方策について

泡瀬地区の社会環境（歴史・文化、港、スポーツ等）について

- 泡瀬地区における社会環境の現状認識について
- 泡瀬地区における特徴的・代表的な社会環境について
- 泡瀬地区において興味を引かれる社会環境について

泡瀬地区における自然環境・社会環境に関連する活動について

- 泡瀬地区における自然環境・社会環境に関する活動の認知度について
- 泡瀬地区における自然環境・社会環境に関する活動の参加状況について
- 興味のある自然環境・社会環境に関する活動について
- 行うことがよいと思う自然環境・社会環境に関する活動について
- 参加したい自然環境・社会環境に関する活動について
- 協力したい自然環境・社会環境に関する活動について

回答者属性について

- 性別
- 年齢層
- 職業
- 居住場所及び居住年数

(2)NPO 等諸団体へのヒアリング調査

NPO 等諸団体の意向調査はヒアリング（対面調査）によるものとする。ヒアリング調査は、以下の構成により行うこととする。

団体について

- ・団体の代表者・所在地について
- ・団体のメンバー数について
- ・設立の経緯や目的について

団体の活動について

- ・団体の主な活動内容・活動場所について
- ・メンバー以外の参加者の特性について
- ・活動の頻度について
- ・最も必要な支援・補助等について
- ・活動上の問題点や課題について（苦労話など）

泡瀬地区における自然環境・社会環境に関連する活動について

- ・泡瀬地区における活動の是非・可能性について
- ・泡瀬地区における興味のある活動内容・場所について
- ・泡瀬地区における活動の問題点・課題について

(3)小・中学校、高校、養護学校へのアンケート調査

小・中学校及び高校、養護学校の意向調査はアンケートによるものとする。アンケート調査は、以下の構成により行うこととする。

自然環境に関する学習活動の実施状況について

- ・自然環境に関する学習活動の有無及び内容・場所について
- ・子供たちの反応について
- ・使用した教材・備品等について
- ・問題点・課題、苦労した点などについて

社会環境に関する学習活動の実施状況について

- ・自然環境に関する学習活動の有無及び内容・場所について
- ・子供たちの反応について
- ・使用した教材・備品等について
- ・問題点・課題、苦労した点などについて

今後実施が考えられる自然環境・社会環境に関連する活動について

- ・興味のある自然環境・社会環境に関する活動について
- ・実施予定のある自然環境・社会環境に関する活動について
- ・実施したい自然環境・社会環境に関する活動について
- ・実施するにあたって必要となるものについて
- ・実施するにあたっての問題点・課題について

学校について

- ・学校名
- ・担当する学年・組の生徒数
- ・回答教諭名